

岩手宮城福島 MIRAI 文学賞・映像賞 受賞者インタビュー ファラ崎士元さん
・2023 年受賞作品 『日本のグリムを追って』

応募のきっかけは「親しみのある遠野を題材に執筆したい」

―― まずは応募のきっかけについて教えてください。

ファラ崎さん：私は大阪の大学に進学して、大阪に住み始めました。そこで、仲良くなった民族学のゼミの先生から教わることになり、実習の一環として「遠野物語」についてレポートを書くよう言われました。周囲は図書館などで調べていたのですが、私は調べているうちに気になってしまって、実際に岩手県の遠野に行ってみたんですね。まさにこの物語の主人公と同じような経緯ですね。

そこで遠野の文化に親しみを感じ、いつか小説にしたいと思っていました。昨年から小説執筆を再開し、親しみのある題材で応募したいと思い、この賞にたどり着きました。私の東北への親しみを書いて喜んでもらえるなら、という気持ちで書かせていただきました。

―― 以前から創作活動をされていたとのことですが、具体的にはいつ頃から始められたのですか？

ファラ崎さん：25 歳ころまで本気で小説家を目指していた時期もありました。現在は V チューバーとして活動している中で、自分の創作意欲が再燃し、1 年くらい前から小説を再び書き始めました。あまり筆が早くない方ですが、短編も長編も書いております。

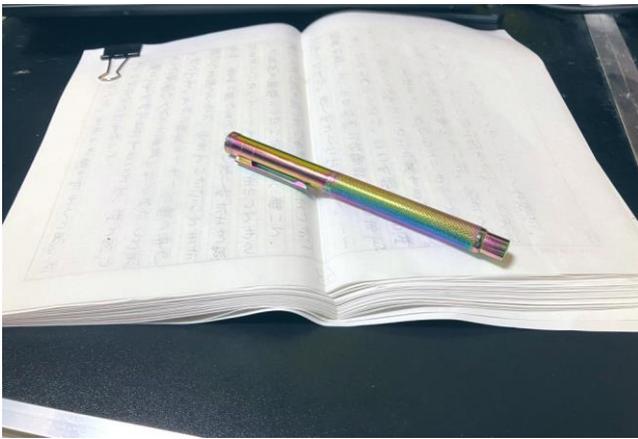


・ファラ崎士元のイラストアイコン

「実際に訪れたいくなる」読後感を目指し2日で執筆

—— 作品づくりの過程について教えてください。

ファラ崎さん：「岩手 小説 新人賞」のようなキーワードで検索して、この賞を見つけたのですが、実はその時点で締切りの4日前でした(笑)。普段は、じっくりと推敲するために原稿用紙に手書きで執筆することが多いのですが、今回は最初からパソコンを使用しました。作品のコンセプトはすぐに決まり、そこから2日で書き上げました。



・普段は紙で書いているという原稿の束

—— 2日で書き上げられたのはすごいですね！

ファラ崎さん：私もここまでの早さで書いたことはなく、一つのチャレンジでした。資料集めは大学時代に使っていたものが残っていたので、それを参考にできたのがよかったですね。また、「テーマ」と「読後感」が指定されており着地点が見えたのも書きやすかったポイントです。小説の読後感って、感動するとか、ワクワクしたとか、怖かったとか様々ある中で、「実際に訪れたいくなる」という読後感を、自分の体験や感動をベースにしながら書き上げることができました。

食・自然・文化を重ねた作品づくり

—— 執筆で特にこだわった部分はどこですか？

ファラ崎さん：もちろん、テーマである東北の魅力を伝えることですね。観光をする際に重視されやすい、食べ物の美味しさや自然の美しさを描くことで、読者が現地に行きたいと思

えるような作品を目指しました。また、ただただ自然がきれいというだけでなく、遠野物語の伝承や文化を取り入れ、ただの観光案内ではなく、深みのある物語にすることを意識しました。

―― 主人公のキャラクター設定にはどのような工夫がありましたか？

ファラ崎さん：作品のテーマから、主人公の性格を元気でハツラツとしたタイプにしたのですが、私とは少し逆のタイプなので少し大変で、とにかく物語を動かしていくことに重点を置きました。侘び寂びとかもわからなさそうな熱血な性格の主人公でも、遠野の美しい風景や文化に触れて感じる感動を描くことで、読者に強い印象を与えたいと思いました。



・いつも執筆している喫茶店のモーニング

受賞者・受賞作品と関わることで、東北への見方に変化も

―― 受賞の感想を教えてください。

ファラ崎さん：作品を喜んでもらえて良かった、という気持ちがすごく大きいです。

―― 受賞後、なにか変化はありましたか？

ファラ崎さん：同じ受賞者の梅若とろろさんとも SNS とも交流する機会があり、それも良い刺激になりました。梅若さんの作品にも出てくるウルトラマンと福島県の関わりなども初めて知りました。また、授賞式で映像賞の作品なども見させていただいて、作品の着眼点

なども面白く、東北がこんな土地だったんだなということを深く知るきっかけにもなりました。

他にも、東北は伝統文化を大事にしていたり、復興に力を入れていたり、真面目で少し固いイメージを元々持っていました。サブカルなども発展していることを知って、ユーモラスな一面を見ることができ、印象は結構変わりましたね。

人々から、住む土地への愛情を感じることができる

—— 東北のすきなところを教えてください。

ファラ崎さん：遠野を訪れた際、自然豊かで空気が澄んでおり、食べ物が美味しいという感想を持ちました。震災の2年後くらいで、私なんかがお邪魔していいのかなという気持ちもあったのですが、皆さん快く迎え入れてくださいました。なんかこう、心の強い性格の県なんだなという印象をもちました。その心の強さの礎みたいところに、遠野物語のような民俗学的な部分も含まれているのかなといった興味があります。

また、授賞式で仙台に来た際、移動で体が疲れてしまって整体に行っただけです。そこで整体師さんに勧められて仙台うみの杜水族館を訪れました。水族館も楽しかったのですが、その上でその土地の人がきちんと自分たちの土地のいいところを知っているというのはすごくステキだなと感じました。

—— 本日はありがとうございました。最後に岩手宮城福島について一言お願いします。

ファラ崎さん：東北の人々は非常に温かく、地域への愛情が深く、自分たちの土地を誇りに思っている姿が印象的でした。私自身もその温かさに触れ、ますます東北が好きになりました。映像受賞作品の方にも、私が伝えたいような東北の魅力が詰まっていると思うので、ぜひ見てほしいですね。

ファラ崎さんからは東北の人々の価値観に触れられるようなお話をお聞きできました。岩手宮城福島 MIRAI 文学賞・映像賞は、テーマ性があり制作がしやすいというようにお話もいただきました。ぜひ今年度の賞にチャレンジください。